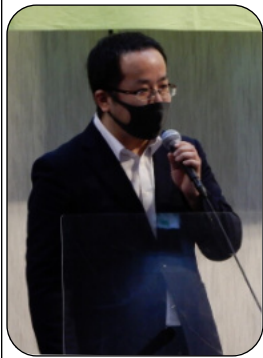


第22回定期大会開催



サービス連合の組織体制の検討について提起

サービス連合新聞



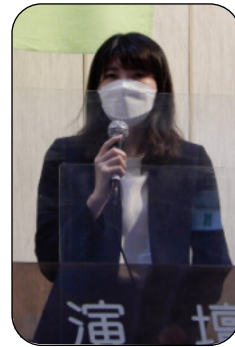
和久議長

サービス連合は、2022年7月26日にアートホテル日暮里ラングウッドにて、第22回定期大会を開催しました。「2021〜2022年度運動の中間まとめと補強」「時短アクションプランの改訂」など五つの議案が執行部から提案され、すべての議案が原案通り可決されました。合わせて来期以降の組織体制に関する「サービス連合の組織体制の検討」について提起をおこない、2022年度がスタートしました。本大会についても新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、ウェブ併用の集合形式で開催し、役員、代議員、傍聴者などウェブ参加を含めて120人が出席しました。



齋藤会長代理

冒頭、笹山会長代理が開会の挨拶をおこない、議長団は和久貴充大会代議員（阪急阪神ホテルズ労働組合）・野原里実大会代議員（東武トップツアーズ労働組合）の両氏が選出されました。主催者を代表して挨拶した齋藤会長代理は、「政治と選挙」「春季生活闘争」「コロナ対策」「方針」の四点について述べました。「政治と選挙」については7月に投票票がおこなわれた第26回参議院議員選挙の結果について触れたうえで、今後もサー



野原議長

ビス連合政策推進議員懇談会をはじめ国会議員と連携して政策実現に取り組むことを述べました。「春季生活闘争」については、2022年春季生活闘争の結果について、これまでの2年間と比較すると一定の成果が得られたことや、将来にわたっての人財の確保、定着に向けた労働条件の回復・向上にむけて引き続き取り組むことが重要であると述べました。「方針」については、加盟組合への支援についてこれまで以上に加盟組合の組織強化に向けた支援にあたる決意を示しました。また、「10万人組織へのプロセス」のもと、組織拡大の取り組みの土台から作り直すこととして、これまでにない取り組みを展開したことや、政策の取り組みについては、3月に策定した「2022年度



会場の様子



連合 芳野会長

の重点政策」や、これまでの産業政策だけでなく、労働政策、社会政策を策定することについて述べたうえで、本定期大会で提起をおこなう「サービス連合の組織体制の検討」についての意見交換や議論参加への御礼をおこない、挨拶は締めくくられました。

来賓としてお迎えした連合の芳野会長からは、政治選挙の取り組み、恒久平和、コロナ禍での社会的セーフティネットの脆弱性、2022年春季生活闘争、組織拡大の強化、ジェンダー平等、ニューノーマルの労働のスタイルの七点について、激励の挨拶をいただきました。

さらに来賓として、サービス連合政策推進議員懇談会会長の太塚耕平参議院議員、副会長の徳永エリ参議院議員、幹事の伊藤孝志参議院議員とともに、先参議院議員選挙で連合組織内

〒160-0002 東京都新宿区
四谷坂町9-6 坂町Mビル2階
サービス・ツーリズム産業
労働組合連合会
TEL 03-5919-3261
発行人 石川聡一郎

候補として推薦した浜口誠参議院議員にも出席いただき、挨拶をいただきました。徳永議員、伊藤議員、浜口議員からは選挙推薦への御礼も述べられました。



石川事務局長



質問する大会代議員

議事においては、「2022春季生活闘争のまとめ」「2021〜2022年度運動の中間まとめと補強」「2022秋闘方針・2023春季生活闘争方針策定にむけて」、5年に一度の改訂を迎える「時短アクションプランの改訂」「会計規定 別表・科目の追加」の五つの議案が提案され、いずれの議案も可決となりました。運動の中間まとめと補強では、団体生命共済産別統一制度について代議員より、「産別統一制度は20名未満の加盟組合も加入することができ、サービス連合の加盟組合やこれから仲間になる産業ではたらくものにも意義のある制度であり、前向きに議論を進めてほしい」と発言がありました。さらに議案とは別に、来年度以降の「サービス連合の組織体制の検討」に関する提起をおこないました。2023年度以降の組織のあり方について、将来にわたってサービス連合の活動が持続的に発展していくた



会場での採決の様子

め、提起として、今後、加盟組合で組織討議に入り、来年1月の中央委員会での新たな組織体制を提案します。

また、すべての議事が確認された後に、役員補充選挙がおこなわれました。新しく役員に選出された中込真人新会長代理、千葉友希子新中央執行委員長からは就任にあたっての挨拶がありました。また、退任となった笹山雅文元会長代理、渡邊慎也元中央執行委員に対しては、これまでの活動に対して退任

今回で退任された役員



渡邊元 中央執行委員 (近鉄エクスプレス労働組合)



笹山元 会長代理 (JT Bグループ労働組合連合会)

サービス連合での活動大変お疲れ様でした。引き続きの活躍を祈念しております。

今回より就任された役員



千葉新 中央執行委員 (近鉄エクスプレス労働組合)



中込新 会長代理 (JT Bグループ労働組合連合会)

今後ともよろしく願っています。

慰労表彰をおこない、挨拶をいただきました。最後に津和崎副会長の挨拶がおこなわれ、今定期大会は閉会となりました。

「たすけあいの輪をむすぶ」
 こくみん共済 coop は、次のステージへ

こくみん共済	団体生命共済
火災共済	自然災害共済
総合医療共済	せいめい共済
マイカー共済	自賠責共済
交通災害共済	新セット移行共済

こくみん共済 (全労済) COOP
 たすけあいの輪をむすぶ



大塚耕平参議院議員

（大塚耕平参議院議員）
 コロナ禍の影響を受けている大変な状況で後藤会長をはじめとしたサービス連合の皆さんには第11次にわたる緊

今大会では、政策推進議員懇談会のメンバーをはじめとした国会議員にも来賓としてご出席いただきました。その際の挨拶の内容をご報告します。第26回参議院議員選挙でサービス連合が推薦した議員からお礼の言葉が述べられました。また、各加盟組合におかれましても、選挙期間中の支援、ご協力ありがとうございました。

第26回参議院選挙を受けて
 政策推進議員懇談会の議員・当選議員より

急要請行動を粘り強く続けていただいた結果、政府の雇用調整助成金の特例措置の延長に繋がる大きなきっかけとなったと感じています。この結果はサービス連合で働く皆様だけではなく、多くの労働者にも恩恵が及んでいます。国会議員の一人としても心から敬意と御礼を申し上げます。

一方で諸外国に目を向けてみると、観光客の動きや交通の利用者がコロナ前に復元した国もあり、日本はこれからのように対応していくか、政策推進議員懇談会としても皆様としっかりと対応していきたいと思えます。また、コロナ禍によって生じたデジタル化は急速な社会変化を起し、皆様の現場にも大きな影響を与えているのではないかと思います。新しい政策や課題について、サービス連合の皆様とともに重点政策をしっかりと考え、その実現にむけて取り組んでいきます。

(徳永エリ参議院議員)

北海道は観光が基幹産業となっておりますが、最近では飛行機の便によって満席だったり、お土産を持った家族連れも増えてくる中で、ようやく観光需要も戻ってきたと感じました。また、現地の観光産業で働いている皆さんもとても忙しいように見えたが、最近になり新たな変異株の影響もあり、感染が急拡大していることから、見えない敵との戦いはまだまだ続いているのだと感じています。しかしこの2年間で暮らしても産業も傷んでしまっ

るので、これ以上経済を止めるわけにはいきません。国と地方が連携し、感染防止対策を徹底して経済を回していくことを国会で議論していかねければなりません。これまでの状況から事業主の方は多くの融資を受けている状況



徳永エリ参議院議員

でもあり、その償還についてもコロナ債務の減免や、雇用調整助成金も中長期的な観点でみていかなければなりません。場合によっては持続化給付金の再給付も検討が必要であり、さらには円安の影響も踏まえて、海外旅行などの旅行代金が高騰する懸念もあります。これからも頻繁に政策推進議員懇談会の開催などをつうじて、現場の皆さんの声を聞いて、安心につなげていく、そして1日でも早くコロナ前に戻るよう皆さんと共に頑張っていきます。



伊藤孝恵参議院議員

(伊藤孝恵参議院議員)

第11次にわたってコロナ禍の緊急要請を実施している組織は他にありません。外国人観光客の再開にあたっては、国会の議論の中で首相は「マスクの着脱管理は添乗員にお願いする」と発言したため私からは、添乗員の仕事は旅程管理であることを訴えしました。他にコロナ禍の休業の協力金は県単位で異なっており、他の県では対象になつていないにも関わらず愛知県ではホテルの婚礼が対象ではないことを皆さんの声から知ることができました。

そして私はいつも思っていることがあります。国会はこの国の当たり前を作るところであり、労働組合の



浜口誠参議院議員

当たり前は(それぞれの)会社の当たり前を作るところで、そしてこの未来の当たり前を作るのは今であり、だからこそ今頑張り、共に連帯をして一生懸命働きたいと思っています。

(浜口誠参議院議員)

皆さんが担う世界の人流・物流、観光産業はコロナ禍で様々な影響を受けていましたが、引き続きこの国の基幹産業として乗り越えて頑張っていたきたいと思っております。日本は観光競争力1位にもなりましたので、強みを活かしていくには政治側からの後押しも重要だと思えます。仲間の議員と共に産業が発展することと力を尽くし、働く皆さんが働いてよかったと思うことができるように全力で支えていきます。



サービス連合第22回定期大会 主催者挨拶要旨

本日、第22回定期大会にご参集または、ウェブでご参加いただきました代議員、特別代議員の皆さんありがとうございます。また、ご多用のところご来賓として連合労働会会長、「サービス連合政策推進議員懇談会」会長 大塚耕平 参議院議員、副会長 徳永エリ 参議院議員、幹事 伊藤孝恵 参議院議員、また浜口誠 参議院議員にもご臨席賜り誠にありがとうございます。サービス連合を代表し御礼申し上げます。

後ほどそれぞれの皆さまにご挨拶賜ります。よろしく願い申し上げます。

まず、本年2月に発生したロシアによるウクライナへの侵攻についてです。国際秩序を無視したロシアによる一連の蛮行により、多くの市民に犠牲がでており、断じて許されるものではありません。サービス連合は、今回の軍事侵攻を厳しく非難するとともに、国際社会が連帯し、外交による解決を求めるため、加盟組合に電磁式での署名を呼びかけ、5月10日外務省に対して要請行動をおこないました。また連合がすすめる「ロシアのウクライナ軍事侵攻に対する救援カンパ」についても加盟組合に呼びかけをおこないました。この間の加盟組合のご協力に感謝申し上げます。

すでに侵攻から5ヵ月が経過しましたが、残念ながら状況は好転していません。平和産業で働く者の立場から、改めて内閣総理大臣に対して要請行動をおこなうべく、加盟組合の皆さんに署名の呼びかけをおこなっております。本日の定期大会でも署名を受け付けておりますので、ご協力をお願いします。

さて、本定期大会では、2022春季生活闘争のまとめ、1期2年の中間年として、この1年間の運動の振り返りと補強などについてご審議いただく予定です。また「組織体制の検討」について提起をおこないます。先立ちまして私からは、4点所見を述べさせていただきます。

1点目は、選挙と政治についてです。

参院選の最中、安倍元総理大臣が凶弾に倒れました。謹んでご冥福をお祈りします。国政選挙期間中の、このような卑劣な行為は、民主主義を否定するものです。いかなる理由であっても、暴力によって解決を図ることに対して、サービス連合は断固反対します。

2022年7月10日、第26回参議院議員選挙の投票票がおこなわれました。今回の選挙は、引き続きコロナ禍にあって、その対策とともに、急速な円安・物価高・外交・安全保障への対応などが争点となりました。また、衆議院の解散がなければ今後3年間は国政選挙がないことから、一定期間の国会の勢力図を決める極めて重要な選挙となりました。

結果は与党が非改選を含めて過半数となる76議席を獲得することとなりました。投票率は、52.05%となり、前回から上回りましたが、決して高い数字とはいえ、引き続き政治への無関心や不信感の原因について、真摯に向き合い、解決をする必要があります。

サービス連合は、今回の選挙にあたって政策推進議員懇談会の副会長である「徳永エリ」氏、幹事である「伊藤孝恵」氏を重点候補として推薦しました。また連合組織内候補として「浜口誠」氏を推薦しました。お三方をはじめ、推薦候補者5名全員の当選を果たすことができました。加盟組合の皆さんには、この間における取り組みに改めてこの場でも御礼申し上げます。今後も「サービス連合政策推進議員懇談会」ならびに働く者・生活者の立場に立つ国会議員と連携し、重点政策やコロナ対策など政策実現にむけて取り組みます。

2点目は、春季生活闘争についてです。

2022春季生活闘争も前年に続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、業種によって取り巻く環境が異なる状況においての闘争となりました。多くの加盟組合が今次春季生活闘争をつうじて、労働者の生活と事業を守るために雇用の維持、確保に最大限に取り組み、産業の成長には人財への投資が不可欠であるという共通認識を持ち、労使で真摯に協議を尽くしました。これまでの2年間と比較すると多くの加盟組合が闘争体制を確立し、早期に要求内容を策定して交渉に臨んだ結果、一定の成果が得られたものと認識しています。

改めて、一丸となって取り組むことの重要性を認識し、粘り強く交渉を重ねた加盟組合のみなさんに敬意を表します。

今次春季生活闘争においては産業の回復を念頭に置き、賃金水準回復と引き上げに取り組み、今後にむけての大きな足掛かりとなりました。しかしながら、「2021年度賃金実態調査」の結果を分析すると、2年以上にわたる新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊業、旅行業においては相対的に賃金水準が低下しています。また、「令和4年版観光白書」においても、「観光産業が抱える構造的な課題」として、人手不足、離職率の高さ、賃金水準の低さなどが指摘されています。

これからも将来にわたって産業を支える人財の確保、定着にむけて労働条件の回復・向上に引き続き取り組むことが重要であることは言うまでもありません。

今次春季生活闘争において、全体で取り組むことの重要性と労働組合の果たす役割の大きさを改めて実感しました。今後も全体で取り組むことの意義を理解し、魅力ある産業の実現にむけて、中期的な賃金目標「35歳年収 550万円」の考え方を堅持し、一丸となって取り組んでいきましょう。

3点目は、コロナ対策についてです。

第11次におよぶ緊急要請をサービス連合政策推進議員懇談会の会長である大塚耕平参議院議員の協力のもとおこないました。岸田内閣総理大臣をはじめ関係省庁や各政党に2年以上におよぶコロナ禍における産業の窮状、働く現場の声を要請しました。要請内容のひとつである雇用調整助成金の特例措置については、さらに延長されることとなりました。

長引くコロナ禍の影響で、休業や出向を余儀なくされて、収入の減少や仕事の機会が減少したことから、若手組合員の退職の増加が各加盟組合において顕在化しています。

また、加盟組合の企業において、経費の抑制と需要の戻りに鑑みて新卒採用を手控える傾向もあつたことから、組合員数でも、大幅な減少傾向が見られます。

今後も働く現場の声をとりまとめ、政府・政党などへの要請をはじめ、業界団体との連携を強化し、様々な活動を通じて、サービス・ツーリズム産業で働く者の生活と事業を守る取り組みを展開していきます。

4点目は、方針について触れます。

今期において、コロナによって強い影響を受けた私たちの産業状況を踏まえ、本部に専従者を集約させ雇用問題に対応することを第一義として、雇用対策局を設置しました。同時に加盟組合の組織強化の取り組みを進めました。幸いにも多くの問題は発生しませんでした。その一方で、全ての加盟組合を訪問して、現状の課題をヒアリングし、課題対応など具体的な支援をつうじ、組織強化に努めているところです。

サービス連合として、昨年度以上に加盟組合の組織強化の支援にあたります。ぜひ担当者に声を掛け、サービス連合の取り組みをご活用ください。

続いて組織拡大についてです。第20回中央委員会で確認された「10万人組織へのプロセス」のもと、この2年間は、組織拡大の取り組みを土台から作り直すこととし、特に、未組織・未加盟の分野において、改めて取り組みを再構築しました。ターゲットの選定のほか、継続的な企業訪問、連合本部・地方連合会との連携などこれまでにない取り組みを展開しました。また未組織対策では、加盟組合の皆さんからの情報が重要な足がかりとなります。継続的な企業訪問で得た情報と働く仲間の情報を掛け合わせて、まだここにはいないサービス・ツーリズム産業で働く仲間の組織拡大につなげていきます。この場においても、すでに示していますリストに基づく情報提供を加盟組合の皆さんにお願いいたします。

私たち労働組合の活動の基盤は、組合員の強固な団結です。組織力がなければ、労働条件の向上にむけた労使交渉、産業課題の解決にむけた取り組みなど、十分な効果を発揮することができません。労働運動にとって組織拡大はいかなる社会状況であっても歩みを止めるものではありません。

重ねて、未組織・未加盟の情報提供、企業内・関連企業の組織拡大の取り組みをお願いいたします。

続いて政策についてです。産業政策については、現場の課題を集約した「サービス連合の政策」を基に、3月に「2022年度の重点政策」を策定しました。サービス・ツーリズム産業、特に観光関連産業はいまだ厳しい状況にありますが、産業が復調し、再びわが国の基幹産業として重要な役割を果たすべく、「外国人観光客の円滑な受け入れにむけて」「地球環境問題への対応」「地方創生」「安定した国際物流網の確保」「保安関係の整備」の5項目を取りまとめ要請行動に移っています。また、来年度からは、産業政策に加え労働政策、社会政策を策定することとしています。サービス・ツーリズム産業の持続可能な発展と魅力ある産業の実現にむけた、政策の形が整うこととなります。

今後も働く者の立場でそれら政策実現に向けて取り組んでまいります。

結びに、本日提起をおこなう「サービス連合の組織体制の検討」について触れます。昨年、サービス連合は結成から20周年を迎えました。20年を一つの契機とし、2021年1月、第20回中央委員会において10年先を見据えた「長期ビジョン」「10万人組織へのプロセス」を確認しました。これら確認された考えを踏まえさらに今後サービス連合が真にサービス・ツーリズム産業を代表する産業別労働組合に進化するための議論を昨年からすすめてきました。議論をすすめるにあたっては、コロナ禍によって強い影響を受けた産業状況によって現実的な対応を求められることとなりました。

本当に様々な意見が交わされました。改めてこれまで真摯に議論をいただいたすべての皆さんに感謝申し上げます。その議論のなかにおいて、「サービス連合とは何であるのか」という意見を改めていただきました。サービス連合とは、すべての加盟組合ならびにすべての組合員のことであり、さらには、まだここにはいないサービス・ツーリズム産業で働く仲間のことであります。改めて申し上げますが、将来にわたってサービス連合の運動を成長、拡大させるのは、サービス・ツーリズム産業で働く仲間の社会的な地位の向上、労働条件向上、誇りをもって働き生活を送るためです。本日も活発な議論をお願いいたします。

私たちの旅行、宿泊、国際航空貨物産業はコロナによってそれぞれ状況は異なりますが、決して将来性や産業の魅力が失われたわけではありません。厳しい時代だからこそ、労働組合の役割がますます重要になります。引き続き、皆さんと一致団結してこの危機を乗り越え、魅力ある産業の発展のために尽力していくことを申し上げ中央執行委員会を代表しての挨拶といたします。